



ツゲの木はどこにはえているの

関東以南の山地に自然状態ではえている

ツゲは、関東より南のあたたかい地方の山地に、自然の状態ではえています。高さは1～3メートル、幹の直径は8センチメートルほどになります。いつも、緑の葉をつけている木です。

伊豆七島の八丈島、御蔵島にはハチジョウツゲが自生しています。

庭木

ツゲはまた、庭木として植え込みにも使われています。庭に植えられているものはツゲから作り出されたもので、ヒメツゲとよばれています。ツゲより小さくて細くなります。ツゲの葉は、先がするどくとがっていますが、ヒメツゲでは丸くなっています。

くしの材料

木の質は黄色でかたく、くしや印鑑の材料にむいています。八丈島や、薩摩半島の開聞岳の山ろく一帯は、ツゲのくしの産地として有名です。

イヌツゲ

ツゲはツゲ科の植物ですが、モチノキ科のイヌツゲもを俗にツゲとよばれています。庭木や生け垣にされているのはイヌツゲです。ツゲは、葉が左右にならんで出ます(対生)。イヌツゲの葉は互いちがいに出る互生です。(監修・中山 周平)

